

1 5 中等教育におけるキャリア準備教育の現状とカリキュラム開発に関する国際比較研究
研究代表者 名取 一好（教育課程研究センター基礎研究部 総括研究官）

①研究の趣旨，ねらい

本研究は、アメリカ合衆国、ドイツ、フランス、EU諸国、中国を対象として、中等教育におけるキャリア準備教育の取り組みの実態とそれに関わるカリキュラム開発の現状等を明らかにすることを目的とし、日本、アメリカ合衆国、中国、ドイツにおけるキャリア準備教育の現状を調査した。

②研究成果の概要

- わが国の中等教育におけるキャリア準備教育は、多くの中学校や高校で総合的な学習の時間を利用したインターンシップなどの様々な体験活動として実施され、今後に残された多くの課題はあるものの、多くの学校で一定の成果が上げられていることが認められた。
- わが国の専門高校における日本版デュアルシステムは、研究開発指定校を中心に実施され、参加した生徒及び受入企業の担当者へのインタビューで、将来の進路意識の形成等で多大な成果を上げていることが認められた。
- アメリカ合衆国においては、多くの州で、キャリア準備教育が実施され、そのためのカリキュラム開発も活発に行われている。中でも調査を実施したミシガン州では、州の統一試験に職業人として求められる基本的な能力を測定する項目を入れるなど、学力の向上とともに、キャリア準備教育を学校教育における最重要課題として位置づけ、指導者の育成を含めた様々な対策が講じられていることが認められた。
- 中国におけるキャリア準備教育は、普通教育として教科「労働技術科」の中で主に行われ、日常生活における技術・技能及び職業観の育成などを目指しているが、都市部においては強い進学志向のため、十分な成果を上げているとは言えない。しかし、中央政府も若年層や農村部における失業問題のため、中等教育における職業教育の充実を緊急の政策課題として取り上げ、様々な施策を講じつつあることが認められた。
- ドイツにおけるキャリア準備教育は、前期中等教育におけるインターンシップ、後期中等教育におけるデュアルシステムを中心に行われており、これまで国内外から高く評価されているが、最近、受入企業の不足や企業における教育の質の低下等、多くの課題を抱えるようになってきていることが認められた。

○フランスにおけるキャリア準備教育は、わが国の進路指導にあたるオリエンテーションを中心に行われ、教育水準と対応した職種や職務の必要に応じた専門性を問う職業資格の取得を重視するものであることが認められた。

③中期目標との関連性

○本研究は、基礎研究部研究部の活動目標の目標1「中長期的な視点に立った初等中等教育の教育課程の達成と改善に資するための理論的・実証的な調査研究を推進する」及び目標3「社会の変化に応じて新たに要請されている教育内容の円滑な実施に資するための調査研究を推進する。」に関連し、諸外国におけるキャリア教育の現状を調査・分析することをねらいとしている。

④今後の研究予定

○本年度から開始した「学校教育におけるキャリア教育に関する総合的研究」において、本研究で得られた知見等をさらに深めるとともに、対象国を拡大して研究を進める予定である。

⑤キーワード

- (1) キャリア教育
- (2) 国際比較研究
- (3) カリキュラム
- (4) インターンシップ
- (5) 日本版デュアルシステム
- (7) 技術教育
- (8) 職業教育

⑥本研究の研究報告書

○中等教育におけるキャリア準備教育の現状とカリキュラム開発に関する国際比較研究

⑦関連する先行研究や参考となる研究等

○国立教育政策研究所「生涯にわたるキャリア発達の形成過程に関する総合的研究」